



ザ・パック株式会社

**2025年12月期第2四半期
決算説明資料**

2025年9月19日



目次

事業環境・トピックス	P. 3
1. 2025年12月期第2四半期 決算実績	P. 4
2. 2025年12月期 業績予想	P.19
3. 中期経営計画の進捗	P.23
4. サステイナブル経営の進捗	P.31
5. 参考資料	P.35

事業環境・トピックス

事業環境

- ◆ 緩やかな景気回復が続く中で、食料品などの非耐久財の慢性的な価格上昇により、個人消費の回復は賃金・所得の伸びに比べ力強さを欠く
- ◆ 流通小売業界における経営統合や業務提携などの再編が活発化

トピックス

- ◆ 過去最高の売上高を更新。設備投資や人的投資により減益
- ◆ 株式の分割及び売り出しを実施
- ◆ 株式会社光パックス石川の株式を取得し、子会社化
- ◆ 通期の連結業績予想を下方修正、配当は維持

1.2025年12月期第2四半期 決算実績



実績サマリー

売上高は過去最高を更新、積極的な設備・人的投資により減益

(単位:百万円)

	2024年12月期 第2四半期	2025年12月期 第2四半期	
	実績	実績	前期比
売上高	46,617	47,385	1.6%
営業利益	3,525	2,863	△18.8%
経常利益	3,662	3,038	△17.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,999	2,428	△19.0%
1株当たり中間純利益(円)※	52.56	43.09	△18.0%
1株当たり配当金(円)	52.0	58.0	11.5%

- ◆ 紙加工品の販売が好調に推移し、売上高を牽引
- ◆ 積極的な設備投資や人的投資により減益
- ◆ 配当金は1株あたり6円増額

※2025年7月1日付で普通株式1株につき3株に株式分割を実施。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算出

セグメント別実績

(単位: 百万円)

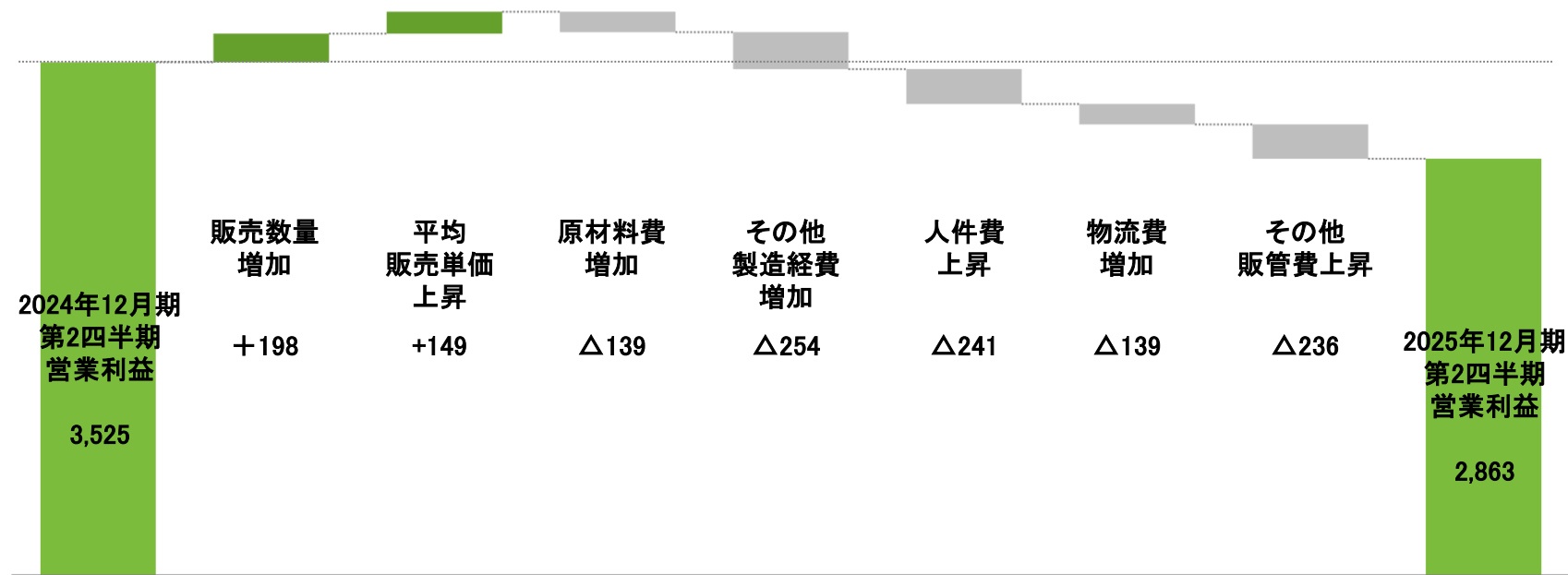
		2024年12月期第2四半期		2025年12月期第2四半期	
		実績	構成比	実績	前期比
売上高		46,617	100.0%	47,385	1.6%
	紙加工品事業	33,322	71.5%	34,881	4.7%
	紙袋	14,279	30.6%	14,485	1.4%
	紙器	12,120	26.0%	12,704	4.8%
	段ボール	5,926	12.7%	6,745	13.8%
	印刷	995	2.2%	945	△5.0%
	化成品事業	6,347	13.6%	6,337	△0.2%
	その他	6,947	14.9%	6,166	△11.2%
営業利益		3,525	100.0%	2,863	△18.8%
	紙加工品事業	3,164	89.7%	2,488	△21.4%
	化成品事業	403	11.4%	286	△28.9%
	その他	519	14.7%	389	△25.0%
	調整額	△562	△15.8%	△302	—

- ◆ 紙加工品事業は、紙器と段ボールの販売が堅調
- ◆ その他事業は、PASシステムに係る用度品の販売が減少
- ◆ 設備や人的投資による販管費の上昇により、各セグメントにおいて営業利益が減少

営業利益増減要因

複合販売により販売数は増加、先行投資により減益

(単位:百万円)



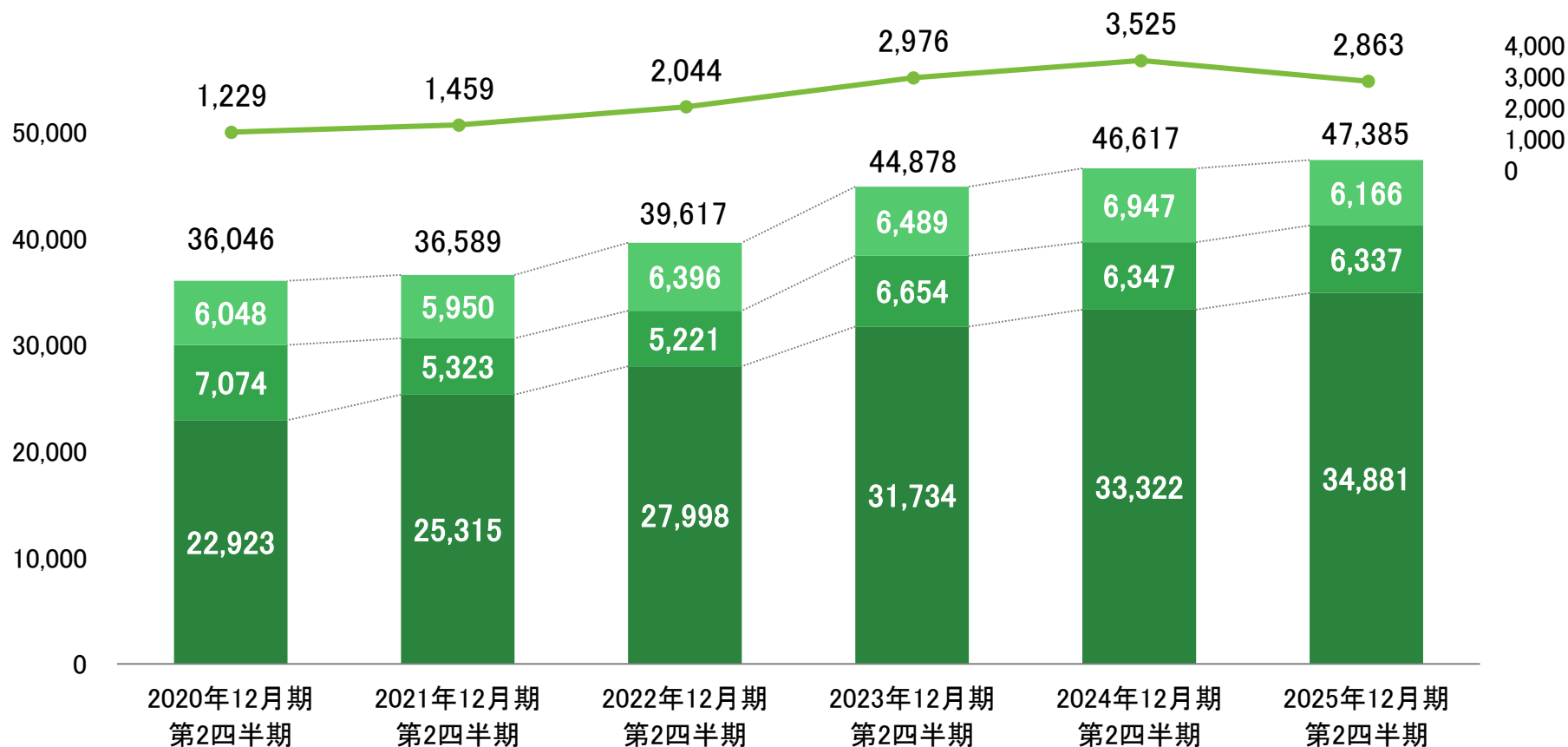
- ◆ 紙器や段ボールの販売数量が増加
- ◆ 価格の適正化、高付加価値商品の販売推進により紙加工品の平均販売単価が上昇（紙袋は2.3%、紙器は0.2%、段ボールは1.7%上昇）
- ◆ その他製造経費増加の主な要因は、機械設備投資の減価償却によるもの
- ◆ 物流費増加の主な要因は、在庫管理体制の移行に伴う外部倉庫契約によるもの
- ◆ その他販管費上昇の主な要因は、基幹システム刷新による投資の減価償却によるもの

セグメント別実績の推移

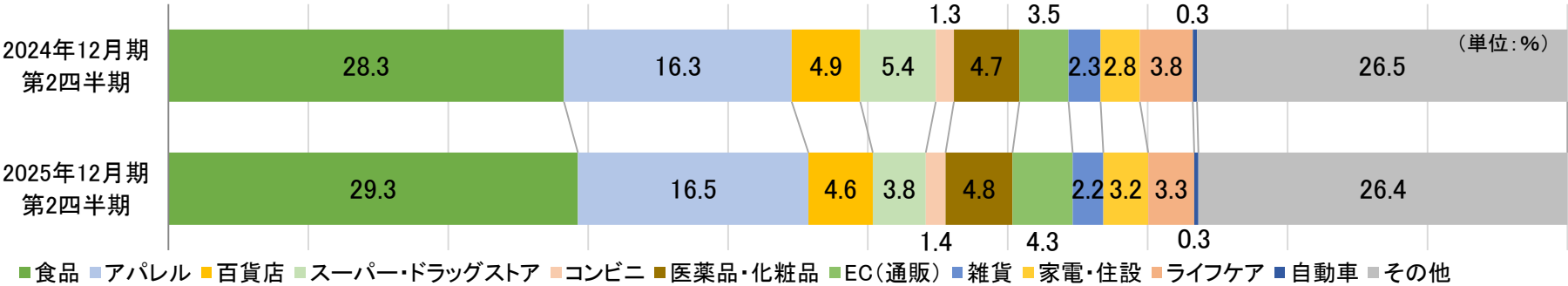
紙加工品が売上高を牽引

(単位:百万円)

■ 売上高(紙加工品事業) ■ 売上高(化成品事業) ■ 売上高(その他事業) —●— 営業利益



業種別売上高構成



(単位: 百万円)	2024年12月期第2四半期		2025年12月期第2四半期		
	実績	構成比	実績	構成比	前期比
食品	13,201	28.3%	13,894	29.3%	5.2%
アパレル	7,620	16.3%	7,821	16.5%	2.6%
百貨店	2,292	4.9%	2,203	4.6%	△3.9%
スーパー・ドラッグストア	2,507	5.4%	1,806	3.8%	△27.9%
コンビニ	597	1.3%	641	1.4%	7.5%
医薬品・化粧品	2,203	4.7%	2,271	4.8%	3.1%
EC(通販) ※	1,616	3.5%	2,025	4.3%	25.3%
雑貨	1,058	2.3%	1,020	2.2%	△3.6%
家電・住設	1,291	2.8%	1,495	3.2%	15.8%
ライフケア	1,755	3.8%	1,558	3.3%	△11.2%
自動車	144	0.3%	151	0.3%	4.9%
その他	12,333	26.5%	12,496	26.4%	1.4%

- ◆ 食品は、土産市場向けパッケージや外食産業のテイクアウト用パッケージ、中食市場向け食品容器の販売が好調
- ◆ 百貨店は、国内消費の伸び悩みやインバウンド消費の一服感により、減少
- ◆ スーパー・ドラッグストアは、個別案件の影響により減少
- ◆ コンビニは、食品用パッケージの販売が好調
- ◆ ECは、紙製宅配袋、その他配送用パッケージの生産体制強化により販売数が増加
- ◆ 家電・住設は、輸出向け梱包材や家電用梱包材の販売が回復
- ◆ ライフケアは、ベビー用紙おむつのパッケージ販売が減少

※「EC(通販)」はモール型ECを対象としており、自社サイト型のECについてはそれぞれの業種の売上に計上

紙加工品事業

＜成長市場における複合販売により増収＞

業界環境

- ◆ 全国百貨店売上高は、5か月連続でマイナス。円高傾向の定着により、インバウンドの高額品の購買減少が継続し、売上高・購買客数が減少。食料品は価格高騰の影響によりマイナス傾向だが、菓子は国内外の手土産需要が好調で3か月連続プラス

(出典：一般社団法人日本百貨店協会「2025年6月全国百貨店売上高概況」より)

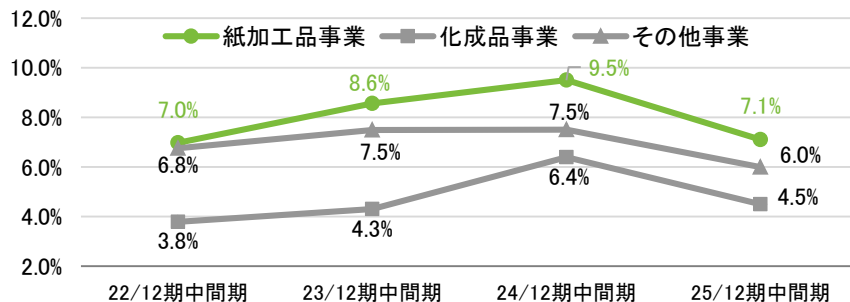
- ◆ ネットショッピングの支出額は、二人以上の世帯において1～6月まで連続で対昨年を上回り過去最多

(出典：総務省統計局「家計消費状況調査」)

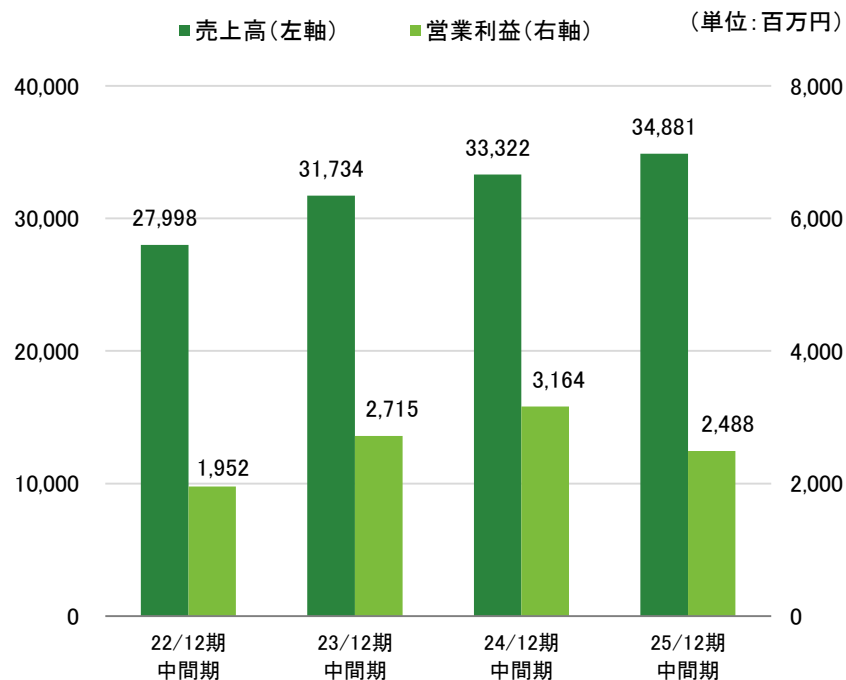
取り組み

- ◆ 機械設備投資および生産性向上
- ◆ 幅広い市場ニーズをカバーするプロダクトの多様化
- ◆ 環境に配慮した素材や加工方法の提案を積極的に展開

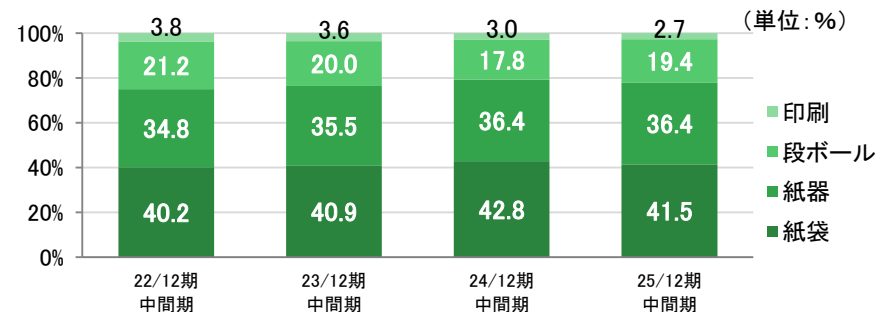
営業利益率の推移



売上高・営業利益の推移



売上高構成比の推移



紙加工品事業(紙袋)

＜多様な商品展開と販売チャネルにより堅調＞

業界環境

- ◆ 業界内の競争激化や消費者マインド低下から、価値提供力の強化が課題→高付加価値仕様への移行ニーズが増加
- ◆ 米国市場においてトランプ関税によるサプライチェーンの混乱が発生
- ◆ 輸送効率の改善、人材確保が課題となり、物流・梱包システムの見直しが進行

取り組み

- ◆ 自社工場における生産能力・技術の向上
- ◆ サプライチェーンの開拓による競争力向上
- ◆ 紙製宅配袋の開発および生産設備の増強
- ◆ 環境対応商品を中心とした高付加価値商品の提案強化

開発製品の一部

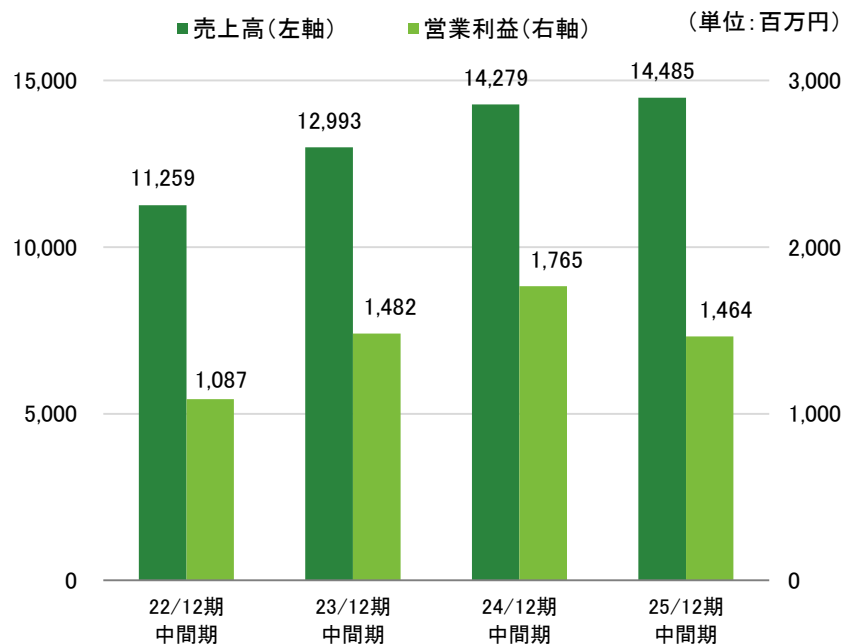


▲不要になった服を混ぜ込んだ「古着混抄紙」

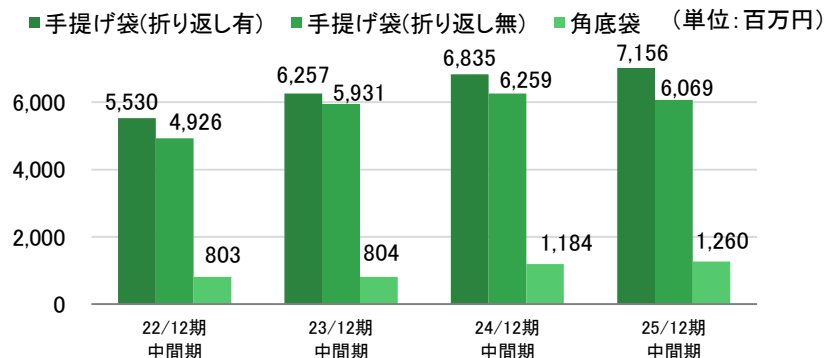


▲自動包装機対応「紙製宅配袋」

売上高・営業利益の推移



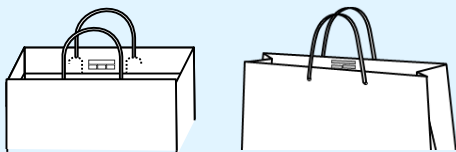
手提げ袋品種別売上高推移



【参考】紙袋の品種一例

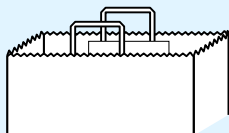
■手提げ袋(折り返し有り)

袋上部が折り返しになっている袋。
折り返すことで袋が丈夫になる為
再利用していただける可能性が高い



■手提げ袋(折り返し無し)

袋上部の天面がギザ刃でカットされている袋。大量生産に向いており、コストメリットが高い



■角底袋・平袋

宅配や食品一次包装用途で使用されることが多い。用途に応じて両面テープを付けることや耐油機能を付与することが可能



紙加工品事業(紙器)

＜食品市場向け紙器の販売が好調＞

業界環境

- ◆ ファストフードをはじめとする外食産業が好調。
各社デリバリーやテイクアウトの販路を強化
- ◆ 食品製造工場の人手不足が深刻化し、紙器の組立てや商品セットアップ等のアウトソーシング需要が増加
- ◆ PFAS規制に対応する素材・加工のニーズが増加

取り組み

- ◆ 食品用紙製一次容器の拡販に向け、設備投資や技術開発を強化(PFAS規制対応)
- ◆ パッケージの販売に加え、紙器の組立てや商品詰め作業等の顧客の人手不足を補うサービスと併せた複合提案に注力

開発製品の一例

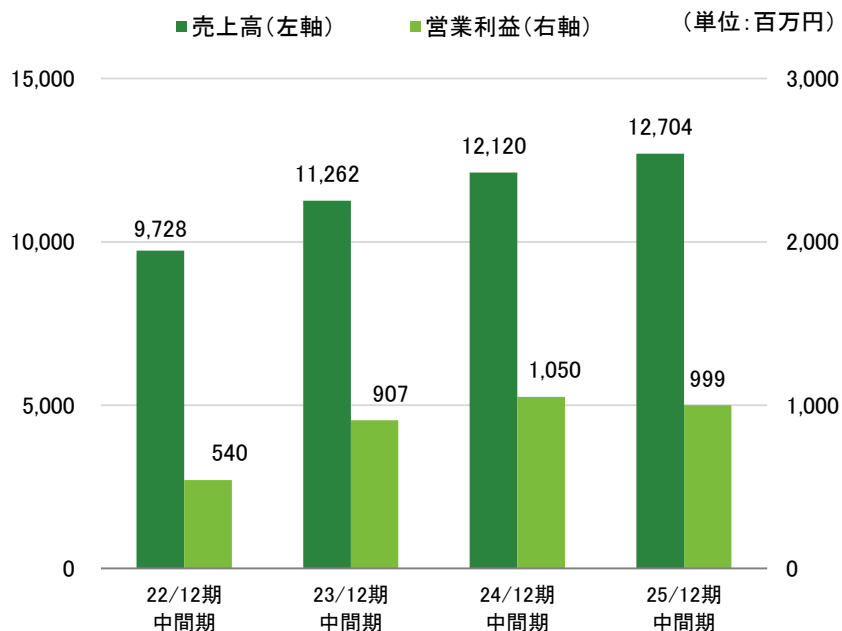
▶プラトレイ代替となる紙製トレイ。特殊構造により、トレイ形状を保持



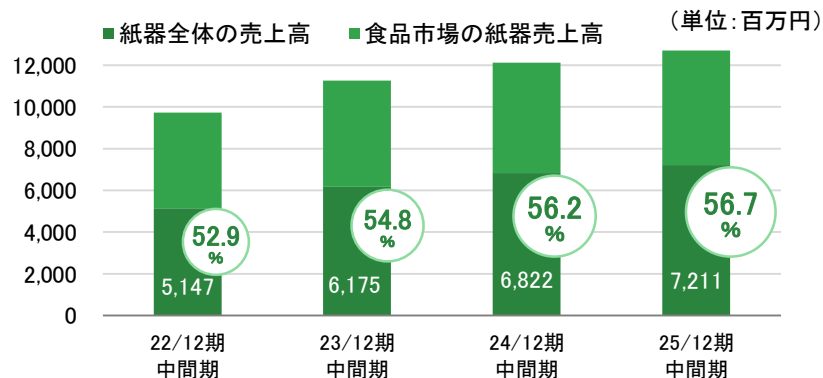
▶海藻由来の原料を活用した次世代型耐油コーティング「カイソナル®加工」



売上高・営業利益の推移



食品市場向け売上高・構成比推移



紙加工品事業(段ボール)

＜幅広い市場に向けた商品展開により売上が増加＞

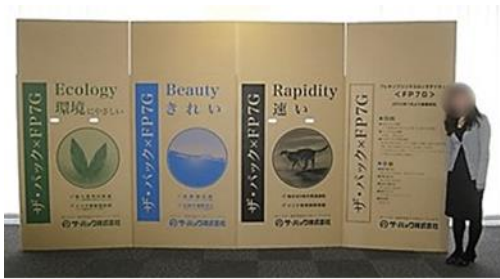
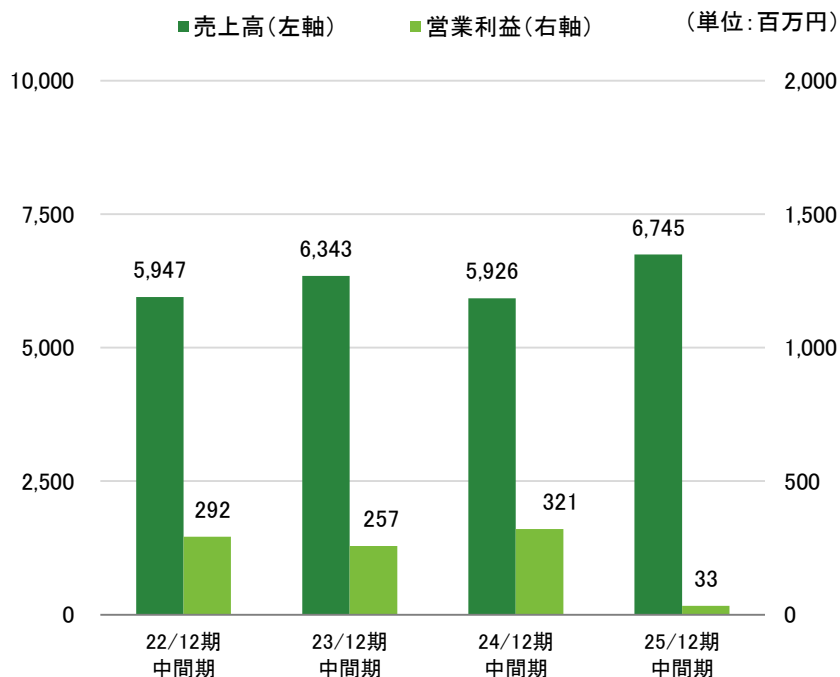
業界環境

- ◆ 2025年1-6月の段ボール業界全体の生産量は前年比99.8%。電気機器・機械器具用の消費は前年比101.3%、通販・宅配・引越用の消費は、101.2%
(出典:全国段ボール工業組合連合会「段ボール統計」)
- ◆ BtoCのEC化率は上昇傾向。梱包現場における省人化や輸送効率改善に向けた提案ニーズが高まる

取り組み

- ◆ EC市場向け配送資材の生産能力を増強
- ◆ BtoC向け配送資材の開発、提案に注力
- ◆ プラスチック製緩衝材の代替となる段ボール製緩衝材の開発、提案を強化
- ◆ 大型サイズの対応等、差別化する自社製造技術の開発

売上高・営業利益の推移



▲国内最大級の段ボール加工商品
「超大型段ボール」



▲特殊な素材構成で、柔軟性と緩衝性を備えた
ALL紙製クッション付き封筒「CC-PACK®」



▲プラスチック製緩衝材に代わる
設計力を駆使し設計された段ボール製パッド



▲高精細フレキソ印刷機を使って
印刷した配送段ボール

化成品事業

＜軟包装の販売が順調に推移＞

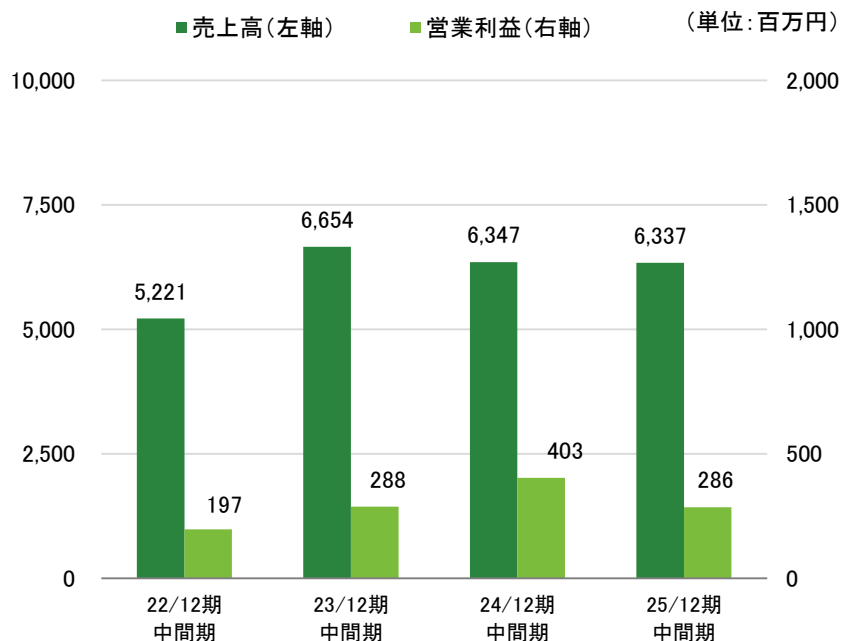
業界環境

- ◆ 環境対応への社会的要請が継続、持ち帰り用手提げ袋の脱プラスチック化や環境配慮素材への切替えが進む
- ◆ ベビー用紙製衛生用品は、海外アジア市場ではローカルブランドが台頭、国内市場では人口減少を背景に低迷
- ◆ 中食市場の需要拡大に伴い、食品軟包装のニーズが増加

取り組み

- ◆ 環境負荷が低い最新の高精細フレキソ印刷機を活用し、美粧性の優れたパッケージを提供
- ◆ フィルムの薄膜化やリサイクル・バイオマス素材の提案を強化
- ◆ 食品市場などを中心に、軟包装の販売を強化

売上高・営業利益の推移

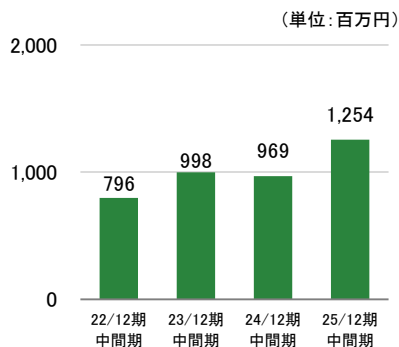


開発製品の一例

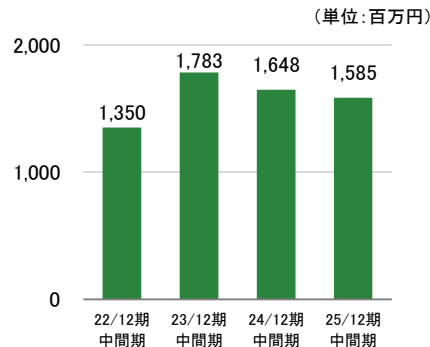


▲完全フィルムレスの
バリア機能付き紙製軟包装

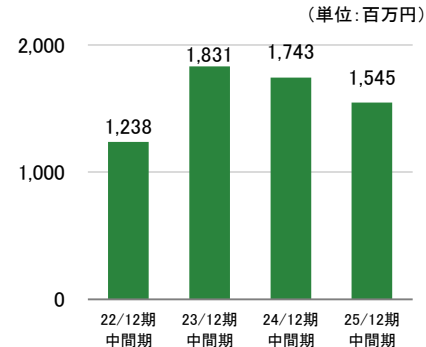
軟包装の売上高推移



プラスチック製手提げ袋の売上高推移



紙製おむつ用外装袋の売上高推移



その他事業 (PAS・縫製品・その他品目)

＜流通小売市場の個別案件による影響で低調＞

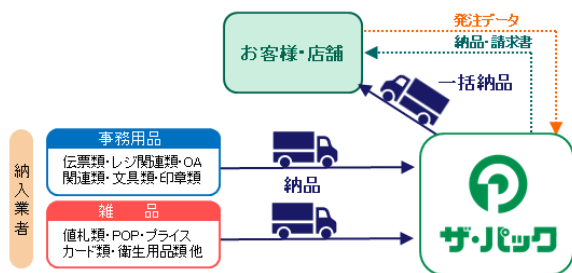
業界環境

- ◆ インバウンド消費の一服感や需要の一巡によりギフト用ラッピング資材や販促用資材の需要が減少
- ◆ 百貨店の売上不調により、店舗で使用される用度品・事務用品の需要が減少
- ◆ 一部の流通小売市場で業界再編が活発化

取り組み

- ◆ 再生素材や自然由来の素材を使用した環境負荷の低い縫製商品の提案を強化
- ◆ 百貨店・専門店向けPAS (Pack Assortment Service System※)においては、物流効率を改善
※用度・消耗品等の一括納品代行システム

PAS (Pack Assortment Service System)



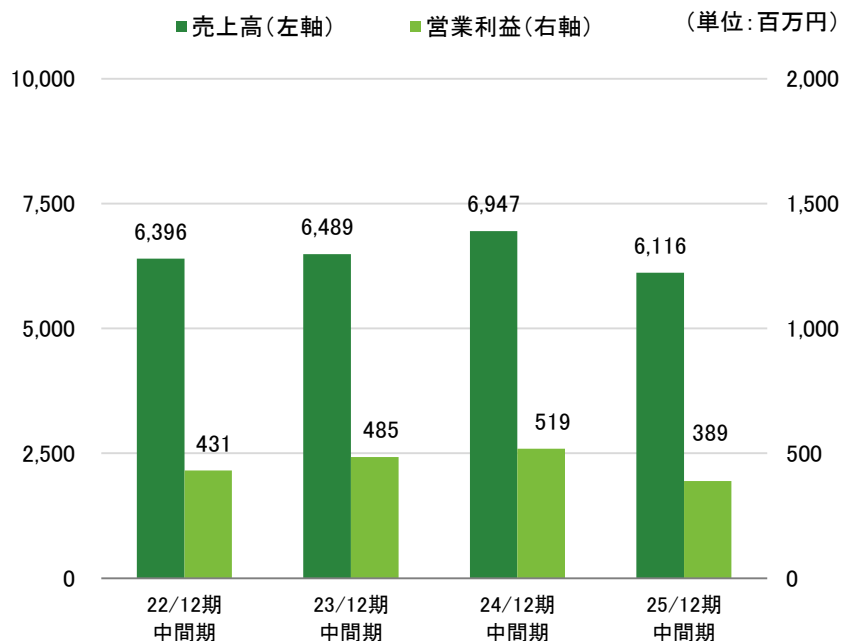
▲一括納品による物流の合理化でCO₂削減にも貢献

環境配慮型縫製商品の一例

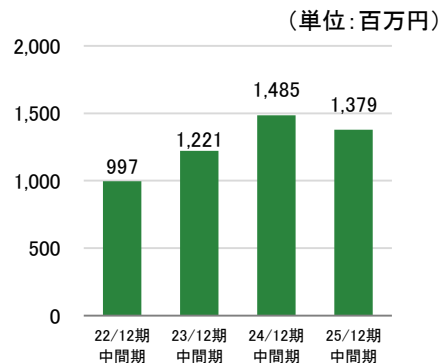


▲工場で発生したコットンやポリエステル
の断裁くずなどをリサイクルした素材
「リサイクルテトロンコットン」

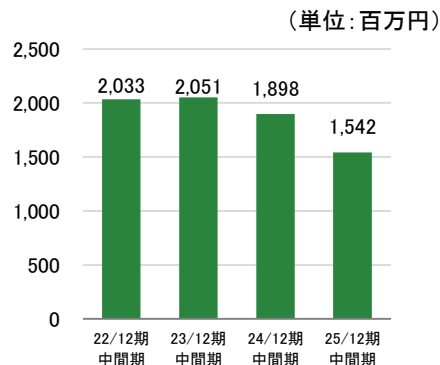
売上高・営業利益の推移



縫製商品の売上高推移



PASの売上高推移



貸借対照表

(単位: 百万円)

		2024年12月期	2025年12月期第2四半期
		実績	実績
資産		103,292	98,532
	流動資産	60,043	55,354
	固定資産	43,248	43,177
	有形固定資産	30,166	30,342
	無形固定資産	3,384	3,894
	投資その他の資産	9,697	8,941
負債		28,806	23,421
	流動負債	27,766	21,914
	固定負債	1,040	1,507
純資産		74,485	75,110
	株主資本	71,437	72,665
	その他の包括利益累計額	3,022	2,426
	新株予約権	25	18

キャッシュ・フロー

(単位: 百万円)

主な項目	2024年12月期第2四半期	2025年12月期第2四半期
	実績	実績
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,301	5,435
税金等調整前当期純利益	4,381	3,524
減価償却費	1,006	1,403
投資活動によるキャッシュ・フロー	△97	884
有形固定資産の取得による支出	△1,958	△1,530
無形固定資産の取得による支出	△635	△607
投資有価証券の取得による支出	△519	△13
投資有価証券の売却による収入	802	779
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,084	△1,378
配当金の支払額	△1,046	△1,239
現金及び現金同等物中間期末残高	22,210	21,399

- ◆ 積極的な製造設備投資や基幹システム刷新に係る減価償却費が増加
- ◆ 政策保有株式の売却による収入を計上
- ◆ 安定的な配当政策を維持

2.2025年12月期業績予想(修正あり)



業績予想

売上高は過去最高額を更新、利益の改善が課題

(単位:百万円)

	2024年12月期	2025年12月期(8月12日開示)	
	実績	業績予想	前期比予想
売上高	101,461	103,000	1.5%
営業利益	8,009	7,300	△8.9%
経常利益	8,285	7,600	△8.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,316	6,100	△3.4%
1株当たり当期純利益(円)※	111.17	108.26	△2.6%
1株当たり期末配当金(円)※	22.00	22.00	±0%

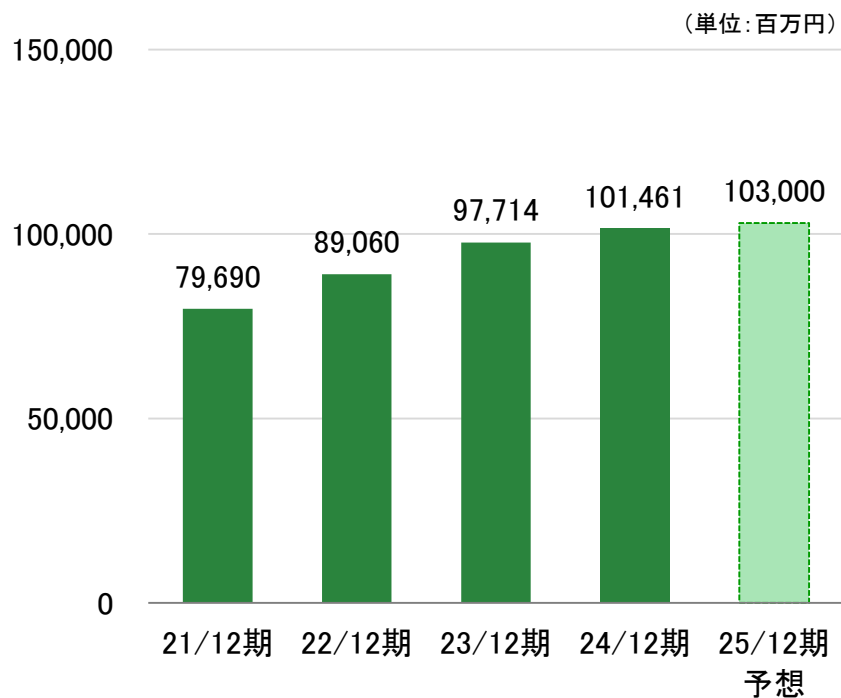
- ◆ 紙加工品を中心とした複合販売により売上高は過去最高を更新
 - ◆ 減価償却費や在庫管理体制の移行に伴う外部倉庫費用の増加により減益
 - ◆ 期末の配当額は配当性向の目安にかかわらず、前回予想の66.0円(株式分割を考慮する場合は22.0円)を据え置き
- ※ 2025年7月1日付で普通株式1株につき3株に株式分割を実施。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算出。(記載の配当金額は、期末の1株当たり配当金)

連結業績推移

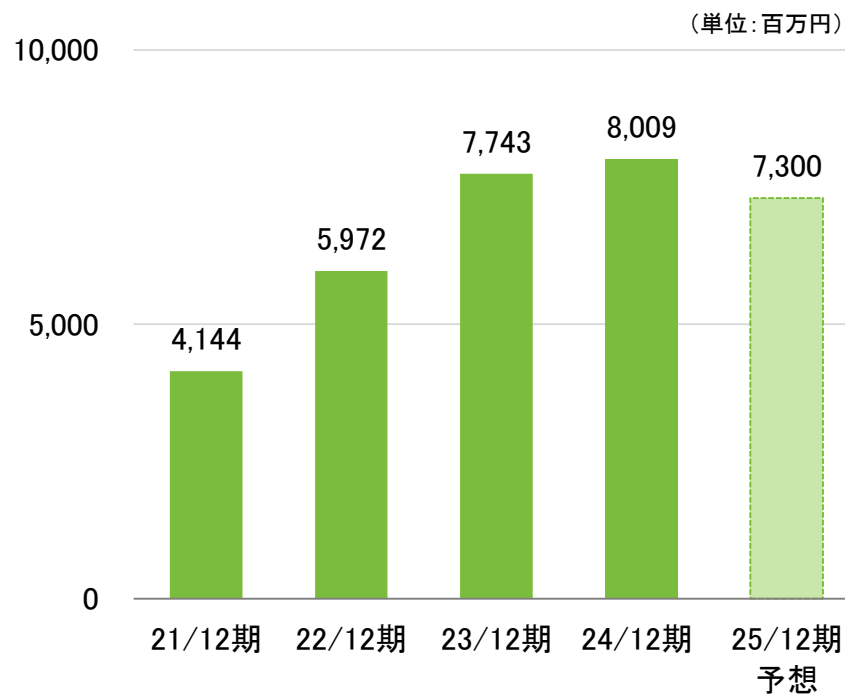
(単位: 百万円)

	2021年12月期	2022年12月期	2023年12月期	2024年12月期	2025年12月期 予想
売上高	79,690	89,060	97,714	101,461	103,000
営業利益	4,144	5,972	7,743	8,009	7,300

売上高の推移



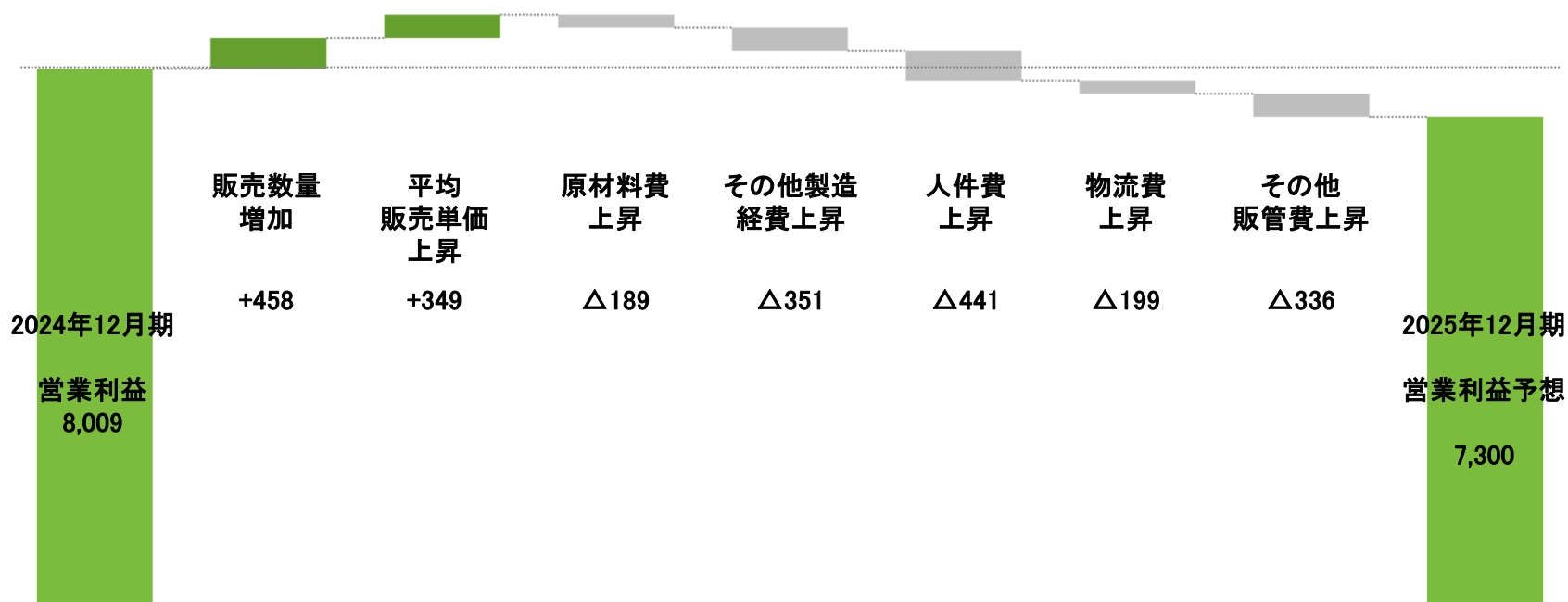
営業利益の推移



営業利益予想増減要因

更なる拡販と生産性向上を推進

(単位: 百万円)



- ◆ 商品ラインアップの拡充と複合提案の効果により、新市場開拓・シェアを伸ばしを販売数量は増加
- ◆ 人員増強や賃上げ等により人件費は増加
- ◆ 生産性向上のための機械設備投資による減価償却費が増加
- ◆ 基幹システム刷新に係る減価償却費と在庫管理体制の移行に伴う外部倉庫契約費用が増加

3.中期経営計画の進捗



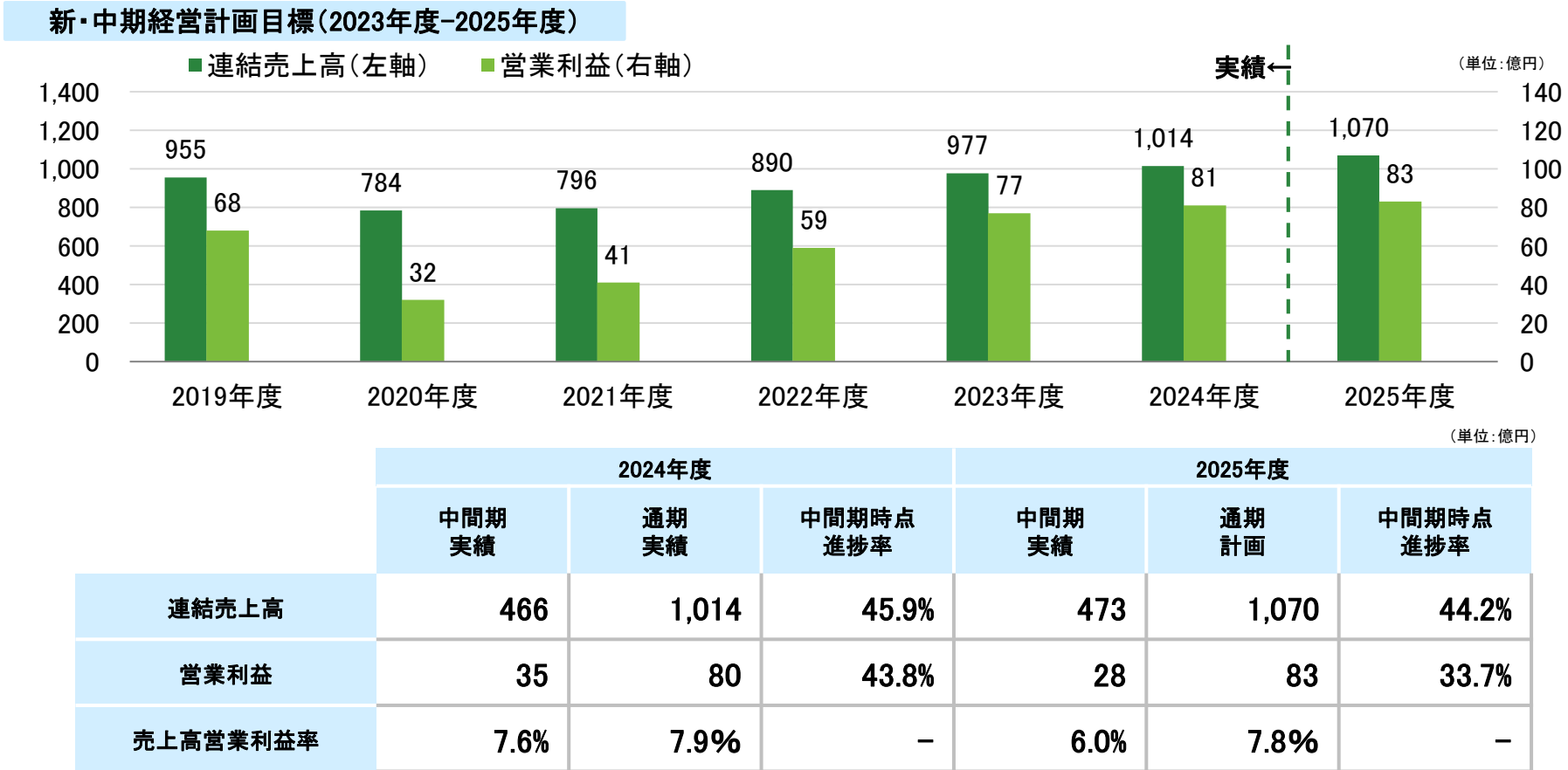
中期経営計画の数値目標の進捗

2025年度目標
※24年2月上方修正

連結売上高 1,070億円 営業利益 83億円
ROE 8%以上 ROIC 8%以上

進捗状況

◆各施策は計画通りに実施。通期目標値の達成を目指す
・生産能力の増強により食品向け紙器および輸送包装材の受注は順調に推移
・新規顧客の開拓による販売チャネルの拡大を推進



中期経営計画の数値目標の進捗(市場別・品種別)

概要

- ◆ 食品市場では紙器、EC市場では紙袋・段ボールが、生産能力向上により増収
- ◆ 一般流通小売市場他は減収であったものの新規顧客獲得は好調

市場別数値目標

(単位: 億円)

	2024年度 中間期 実績	2025年度 中間期 実績	前期比	2025年度 通期 計画
食品(*)	133	136	2.3%	320
EC／通販／物流(*)	74	84	13.5%	180
一般流通小売他	259	254	△1.9%	570
合計	466	473	1.6%	1,070

(*) 中期経営計画における「食品」、「EC／通販／物流」市場は、顧客の業種に加え、商品の用途も考慮し区分

品種別数値目標

(単位: 億円)

	2024年度 中間期 実績	2025年度 中間期 実績	前期比	2025年度 通期 計画
紙袋	142	144	1.4%	315
紙器	121	127	4.8%	270
段ボール	59	67	13.8%	150
化成品	63	63	△0.2%	145
その他	69	61	△11.2%	190
合計	466	473	1.6%	1,070

食品市場向け成長戦略の進捗

定量目標の進捗

(単位: 億円)

2024年度 中間期実績	2025年度		
	中間期実績	前期比	通期計画
133	136	2.3%	320

進捗の概要

- ◆ 各種ソリューション提案による受注機会の創出が進行
 - ・紙器・軟包装の受注は引き続き好調
 - ・M&Aにより商品ラインアップを強化

◆ 食品一次容器の拡販、紙製トレイ・モールド容器などへの取り組み

(単位: 億円)

	2024年度 中間期 実績	2025年度 中間期 実績	前期比
食品市場での紙器全体	73.0	77.3	5.9%
内 食品一次容器	41.7	43.1	3.4%
(参考) 食品市場での紙袋	35.7	34.0	△4.8%

◆ 軟包装の拡販・複合販売

(単位: 億円)

※食品市場向けのみ	2024年度 中間期 実績	2025年度 中間期 実績	前期比
軟包装	7.0	7.4	5.7%

◆ 環境負荷低減に貢献する素材・加工の開発、FSC®商品の拡販 (FSC® C020517)

(単位: 億円)

※食品市場向けのみ	2024年度 中間期 実績	2025年度 中間期 実績	前期比
FSC®商品	25.9	26.9	3.9%

FOOMA JAPAN2025への出展



世界最大級の食品製造総合展であるFOOMA JAPAN 2025に、ザ・パックが出展いたしました。4日間で合計110,827名が来場し、ザ・パックの出展ブースにも多くの方にお越しいただきました。展示ブース内では、「食品業界のパッケージ使用フェーズ」における課題解決の事例紹介や、製品紹介、そしてロボットによるアソート作業のデモンストレーションを行いました。

当社がコスト削減、効率化、人手不足解消など、お客様の課題に合わせた最適なパッケージソリューションをワンストップでご提供できる側面を業界関係者へアピールし、当市場でのより一層の成長を目指して参ります。

◆ 省人化・効率化・自動化に貢献するソリューション提案の推進

流通加工事業の進捗

- ・関東エリアに続き、25年1月より関西エリアの拠点が稼働
- ・顧客層を広げ受注件数を徐々に増加
(24年: 21点 → 25年: 46点)

EC／通販市場／物流業界向け成長戦略の進捗

定量目標の進捗

(単位:億円)

2024年度 中間期実績	2025年度		
	中間期実績	前期比	通期計画
74	84	13.5%	190

進捗の概要

- ◆ 設備投資及びサプライチェーンの強化により受注が好調
 - ・ 顧客の物流課題の増加に伴い、資材・機械の研究開発を強化

◆得意先での輸送効率向上に貢献できる宅配袋の販売強化

(単位:億円)

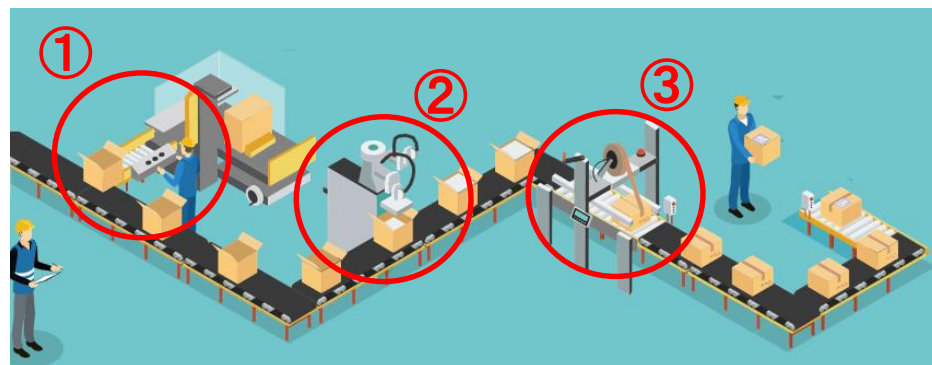
	2024年度 中間期 実績	2025年度 中間期 実績	前期比
紙製宅配袋	5.9	8.1	37.3%
その他宅配用資材	4.4	11.5	2.6倍

◆重量物対応の強化段ボールのさらなる拡販

(単位:億円)

	2024年度 中間期 実績	2025年度 中間期 実績	前期比
強化段ボール	4.7	4.9	4.3%

省人化・自動化システムの研究開発



- ① 商品パッケージ、配送用資材の組立・供給装置
 - ・それぞれの顧客要望に合わせた梱包作業の自動化・合理化装置の設計・開発
 - ・作業効率と商品保護を向上させる、設備の特性を考慮した資材の開発
- ② 商品の自動梱包・省人化の仕組み作り
 - ・プラスチック製宅配袋、紙製宅配袋や個装箱、段ボールケース等の多様な資材や加工条件に合わせた自動化システムに合わせた包装設計仕様の開発・提案
- ③ 封緘・ラベル貼付
 - ・段ボールケースや宅配袋、個装箱のテープ貼り等の封緘装置や発送用ラベル貼りや付帯加工装置のシステム連携の企画や開発

顧客の環境・商品・オペレーションに合わせ、カスタムメイドの企画提案と機器開発を行っている

一般流通小売市場、他市場向け成長戦略の進捗

定量目標の進捗

(単位: 億円)

2024年度 中間期実績	2025年度		
	中間期実績	前期比	通期計画
259	254	△1.9%	570

進捗の概要

- ◆ 流通小売市場では、個別案件の影響により微減
- ◆ 紙加工品の生産能力拡大により新規顧客からの受注が増加

◆ 紙袋シェアの拡大、および紙化を推進する更なる提案販売

(単位: 億円)

一般流通小売市場、 他市場	2024年度 中間期 実績	2025年度 中間期 実績	前期比
紙袋	71.0	70.3	△1.0%
(参考) 化成品	36.2	36.0	△1.0%

◆ お客様とともに社会貢献を推進(ザ・パックフォレスト®環境基金活動)

	2030年目標	2024年度 中間期実績	2025年度 中間期実績
年間活動回数(回)	15	5	5
参加人数(人)	500	124	102
賛同社数(社)	300	115	144

◆ 3R(Recycle Reuse Reduce)に合致した商品販売

(単位: 億円)

	2023年度 中間期 実績	2024年度 中間期 実績	2025年度 中間期 実績	前期比
縫製バッグ・ ギフト資材など	12.2	14.9	13.8	△7.4%

人的資本戦略の進捗

概要

- ◆ 人材の確保・育成と企業価値最大化を目指した施策を継続
 - ・ 採用・賃上げ・職場改善の推進
 - ・ 若手社員教育及びDXによる生産性向上の強化

多様な人材の確保

	2024年度 中間期 実績	2025年度 中間期 実績
キャリア採用	19名	13名
うちリファラル・カムバック採用	5名	3名

人材育成

- ・ 様々な階層、職種に応じた教育プログラムの実施
2025年中間期実施済の研修
 - ◆ 入社前研修・新入社員研修・課長能力研修など
 - ◆ DX研修(第3期)
2024年度: 発掘した人材の育成・成果創出の為のプログラムを実施
(約150名対象)
2025年度: システム刷新を控え業務効率化につながる研修を継続
(約130名対象)
- ◆ 商品知識向上のための勉強会の継続

働く環境の整備

- ・ 社員会(労働者代表)の労務知識向上に向けた取り組み
労使協議会に参加する社員に対して、給与・評価等に関する勉強会を実施。議論をより充実させるための理解促進を継続予定。
- ・ 健康経営の推進
人間ドッグの費用補助や健康保険組合と連携した各種プログラムの周知

従業員エンゲージメントの向上

- ・ 賃上げの継続 2024年度 平均5.50%
2025年度 平均4.51%
- ・ エンゲージメントサーベイの活用
分析結果をもとに2025年内に職場改善研修を実施予定
- ・ 持株会への加入促進による経営参画意識の向上
社員持株会向け譲渡制限付株式インセンティブの実施

人員計画

	2024年度 12月末 実績	2025年度 6月末 実績	進捗率	2025年度 計画
正社員・契約社員・パート 含む全従業員数	1,836名	1,933名	100.7%	1,920名

- ・ 東日本エリアの営業人材を補強
- ・ 4月よりグループ会社となった(株)光パックス石川の従業員数(69名)が増加
- ・ 営業・製造人員の増加と共に人材育成によるレベルアップ・人材配置の適正化による生産性の向上を目指す

財務戦略の進捗

概要

- ◆ 市場環境の変化に対応しながら計画を遂行
 - ・ 主力商品の製造能力増強および成長市場へのM&Aの実施は計画通りに推移
 - ・ 中長期的な企業価値の向上を目指し、新しい施策も推進

設備投資

(単位: 億円)

		当初計画 (23-25年)	23-24年度 実績	2025年度 計画	2025年度 中間期 実績
戦略投資	紙器製造能力増強	20.0	20.4	3.0	0.2
	紙袋製造能力増強	30.0	27.3	11.5	5.4
	合理化・省人化	11.0	2.3	1.6	0.7
	省エネ・省資源	2.0	0.5	-	-
	その他	2.0	2.1	0.3	0.2
	戦略投資 計	65.0	52.6	16.4	6.5
工場設備維持他		20.0	9.7	10.6	0.7
土地取得	大阪工場近隣工場用地	-	19.0	-	-
	東京工場隣接工場用地	-	7.4	-	-
本社建替			10.0	-	-
合計		85.0	98.7	27.0	7.2

基幹システム刷新

(単位: 億円)

	2025年度 計画	2025年度 中間期 実績	2023年度～ 2025年度 計画
基幹システム刷新投資額	10.0	4.7	20.0

M&A

- ・ 2025年2月、石川県の食品・菓子市場向け紙器メーカー
(株)光パックス石川の株式を取得し、子会社化。当社が成長市場として注力する食品用パッケージの生産能力拡大、紙器ラインアップの拡充により当市場でのさらなる成長を目指す

社 名	株式会社光パックス石川
所 在 地	石川県加賀市南郷町式6-6
代 表 者	代表取締役 芳山和彦
事 業 内 容	紙器の製造および販売、包装用品のデザインの企画および設計、印刷業
資 本 金	3,000千円
設 立 年 月 日	1993年8月11日
前年度売上高	960百万円

資本政策および株主還元

- ・ 中期経営計画における資本政策の一環として、**株主還元の強化及び資本効率の向上等**を図ることを目的に**上限10億円(同90万株)の自己株式取得**を決議
(取得期間: 2025年2月13日-12月31日)
- ・ **投資しやすい環境の整備、投資家層のさらなる拡大**を目指し、本年6月30日を基準日として1:3の株式分割を実施
株主優待は継続とし、期末配当予想を増額修正
【従来予想64円(同年5月12日公表) ⇒ 66円(同年5月30日公表)】

- ・ 本年8月29日開催の取締役会において、株式売出しを決議
当社株式の円滑な売却実現、浮動株比率の向上、株主層の拡大を通じ、**中長期的な企業価値の向上**を目指してまいります

4.サステイナブル経営の進捗



サステイナブル経営の進捗

マテリアリティKPI

◆ 2030年度までの達成を目標として5つのKPIを策定。アクションプランと直近4年間の実績は以下の通り

マテリアリティ	KPIとアクションプラン	2030年度目標と過去4年実績												
①環境に配慮した商品企画及び技術開発	◆ FSC®商品(紙袋・紙器・段ボール)の売上高※1 構成比を50%以上にする ・パッケージの紙化提案を強化する ・FSC®認証取得サプライヤーの拡充を行う ・紙を基材とした新素材・新製品の開発を加速させる ※1売上高 = ザ・パック単体の紙加工品事業全体 (FSC® C020517) <2025年度中間期実績> ・2025年6月末時点販売額62.1億円(前期比4.6%) ・2024年6月末時点販売額59.3億円	<table><tr><th>年</th><th>構成比 (%)</th></tr><tr><td>2021年</td><td>13.2%</td></tr><tr><td>2022年</td><td>17.4%</td></tr><tr><td>2023年</td><td>20.2%</td></tr><tr><td>2024年</td><td>21.1%</td></tr><tr><td>2030年</td><td>50.0% (KPI)</td></tr></table>	年	構成比 (%)	2021年	13.2%	2022年	17.4%	2023年	20.2%	2024年	21.1%	2030年	50.0% (KPI)
年	構成比 (%)													
2021年	13.2%													
2022年	17.4%													
2023年	20.2%													
2024年	21.1%													
2030年	50.0% (KPI)													
②事業活動全体における環境負荷の低減	◆ CO₂排出量(Scope1+2)を2018年度比で46%削減する(2018年度16,662t→2030年度目標8,997t) ・エネルギー効率の高い機械への切り替えを行う ・使用電力の再エネ化(再エネ購入を含む)を行う ・太陽光パネルの利用を拡大する <2025年度中間期実績> ・グループ会社のCO₂排出量(Scope1+2)算定開始 ・工場にて高効率な設備へと入れ替えを実施	(単位:t) <table><tr><th>年</th><th>排出量 (t)</th></tr><tr><td>2021年</td><td>14,894</td></tr><tr><td>2022年</td><td>15,399</td></tr><tr><td>2023年</td><td>16,756</td></tr><tr><td>2024年</td><td>16,149</td></tr><tr><td>2030年</td><td>8,997 (KPI)</td></tr></table>	年	排出量 (t)	2021年	14,894	2022年	15,399	2023年	16,756	2024年	16,149	2030年	8,997 (KPI)
年	排出量 (t)													
2021年	14,894													
2022年	15,399													
2023年	16,756													
2024年	16,149													
2030年	8,997 (KPI)													

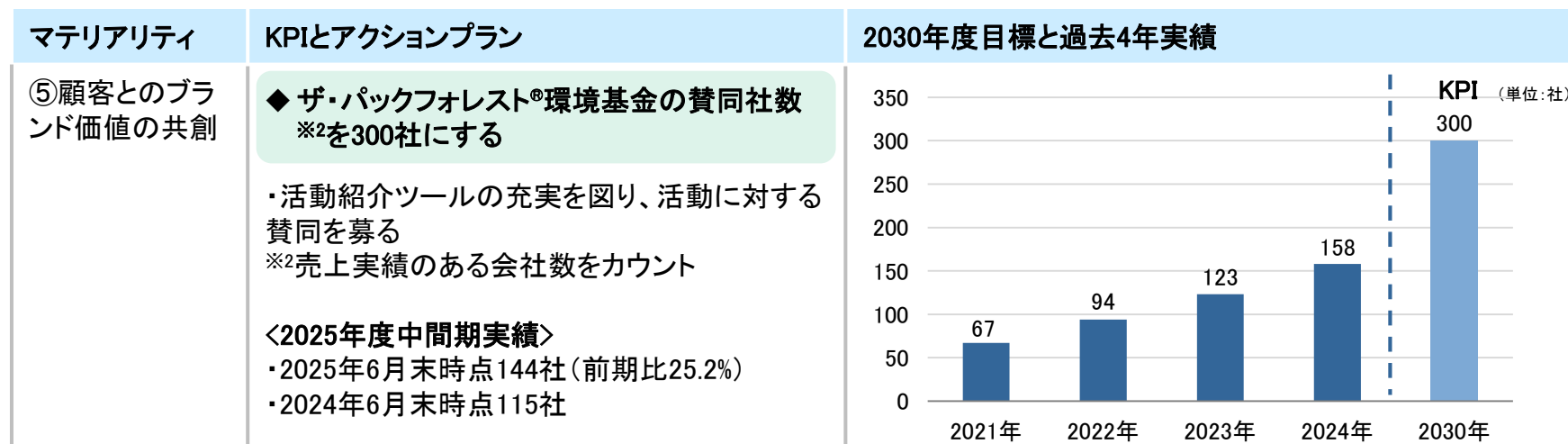
サステイナブル経営の進捗

マテリアリティKPI

マテリアリティ	KPIとアクションプラン	2030年度目標と過去4年実績																		
③自然保護と環境保全への貢献	◆ ザ・パックフォレスト®環境基金活動の年間活動回数を15回、参加人数を500人にする ・活動地の新規開拓により実施可能回数を増やす ・地域住民への周知活動を強化し一般参加者へ募集をかける ・顧客招致活動を強化する <2025年度中間期実績> ・2025年6月末時点 5回活動 102人参加 ・2024年6月末時点 4回活動 124人参加	■ 年間活動回数 ■ 年間参加人数 <table><thead><tr><th>年</th><th>年間活動回数</th><th>年間参加人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>2021年</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>2022年</td><td>4</td><td>111</td></tr><tr><td>2023年</td><td>9</td><td>253</td></tr><tr><td>2024年</td><td>8</td><td>230</td></tr><tr><td>2030年</td><td>15</td><td>500</td></tr></tbody></table>	年	年間活動回数	年間参加人数	2021年	0	0	2022年	4	111	2023年	9	253	2024年	8	230	2030年	15	500
年	年間活動回数	年間参加人数																		
2021年	0	0																		
2022年	4	111																		
2023年	9	253																		
2024年	8	230																		
2030年	15	500																		
④社員が活躍できる多様な働き方の推進	◆ 管理職(課長以上)に占める女性の割合を15%以上にする ・新規学卒採用に占める女性の割合を35%以上にする ・女性が長く働ける制度や環境を整備していく <2025年度中間期実績> ・2025年4月入社新卒採用 女性割合41.2% ・2024年4月入社新卒採用 女性割合35.7%	KPI <table><thead><tr><th>年</th><th>女性割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>2021年</td><td>4.9%</td></tr><tr><td>2022年</td><td>6.7%</td></tr><tr><td>2023年</td><td>6.3%</td></tr><tr><td>2024年</td><td>7.2%</td></tr><tr><td>2030年</td><td>15.0%</td></tr></tbody></table>	年	女性割合	2021年	4.9%	2022年	6.7%	2023年	6.3%	2024年	7.2%	2030年	15.0%						
年	女性割合																			
2021年	4.9%																			
2022年	6.7%																			
2023年	6.3%																			
2024年	7.2%																			
2030年	15.0%																			

サステイナブル経営の進捗

マテリアリティKPI



ステークホルダーとのコミュニケーション

投資家とのコミュニケーション

- ◆ 機関投資家に対する丁寧な個別対応
- ・ 東京パッケージラボへの積極的な招致

(単位:件)

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年 (6月末時点)
個別面談	34	19	39	29	19
ラボ案内	1	1	6	6	4

- ◆ 個人投資家に対する施策も検討中

統合報告書・サステナビリティレポート発行



統合報告書2025



https://www.thepack.co.jp/dcms_media/other/integratedreport2025.pdf

サステナビリティレポート2025



https://www.thepack.co.jp/dcms_media/other/sustainabilityreport2025.pdf

5.参考資料



会社概要

商号	ザ・パック株式会社（英文：THEPACKCORPORATION）
設立	1952年5月（1991年9月上場：2022年4月東証プライム市場）
本社所在地	大阪府大阪市東成区東小橋2丁目9-3
事業内容	紙袋、紙器、段ボール製品、化成品パッケージの企画・製造・販売
役員	代表取締役社長 仲村直樹 他取締役7名(社外3名) 監査役4名(社外2名)
従業員数	連結1,239名(単体866名)
グループ企業	連結子会社9社(国内、米国、中国)
取引銀行	三菱UFJ銀行、三井住友銀行、三菱UFJ信託銀行、三井住友信託銀行、みずほ銀行
主要株主	森田記念福祉財団11.07%、日本マスタートラスト信託銀行(信託口)7.12%、自社取引先持株会6.76%、ビービーエイチフォーフィデリティ ロープライストストックファンド(常任代理人株式会社三菱UFJ銀行)6.50%、日本カストディ銀行(信託口)5.19%、日本カストディ銀行(リそな再信託分・北越コーポレーション退職給付信託口)3.88%、大王製紙3.05%、三菱UFJ銀行2.63%、七條紙商事2.52%、森田商事2.20%

(2025年6月末現在)

ザ・パックグループ（連結子会社9社）

ザ・パック株式会社

本社(大阪)



東京本社ビル



大阪工場



奈良工場



東京工場



茨城工場



（全事業所においてISO9001、ISO14001認証取得済）

国内子会社

(株)京浜特殊印刷



日幸印刷(株)



(株)パックタケヤマ



西日本印刷工業(株)



カンナル印刷(株)



(株)光パックス石川



海外子会社

中国連結子会社

特百嘉包装制品(常熟)有限公司



特百嘉包装品
貿易(上海)
有限公司



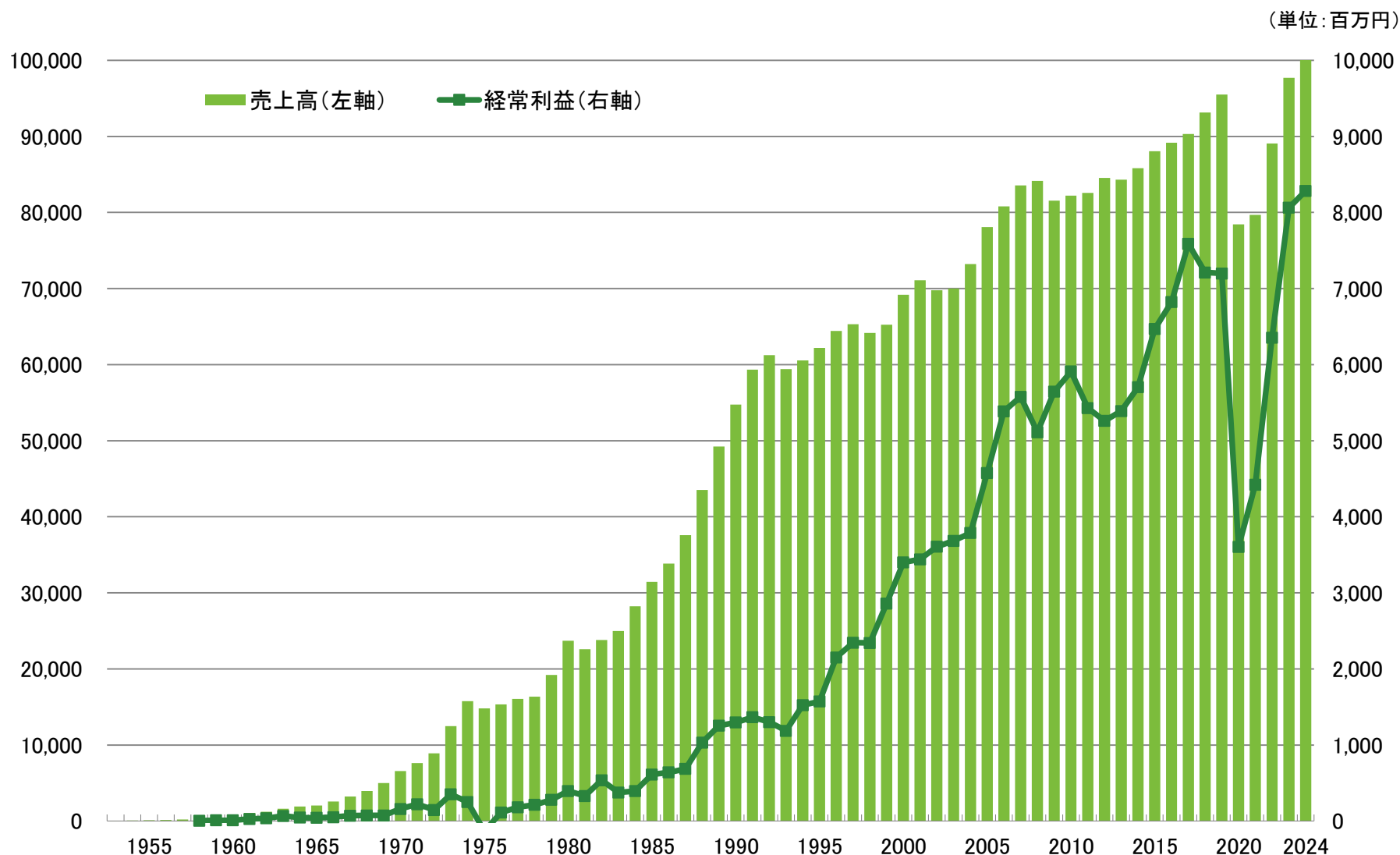
米国連結子会社

ザ・パックアメリカ(NY)



（2025年6月末現在）

売上高・経常利益の推移(連結) 会社設立(1952年)-2024年



主な取り扱い製品の流通構造

消費者

主な販売先



百貨店



コンビニ



スーパー・
ドラッグストア



アパレル



医薬品・化粧品



雑貨



食品



家電・住設



EC(通販)

etc.

 ザ・パック株式会社



原材料メーカー



原紙・原反



インク



糊

その他
部材

etc.

ザ・パックの強み(1)

強み

1.幅広い顧客層



アパレル・雑貨



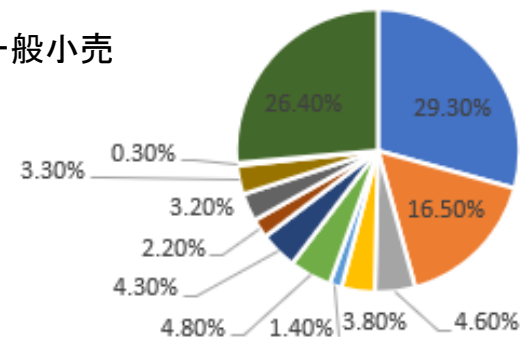
通販

内容

- ◆ 取引社数 約15,000社
 食品・アパレル・百貨店・専門店・量販店・一般小売
 コンビニエンスストア・ファストフード・
 アパレル・家電メーカー・通販 etc.

⇒ 特定の業界不況の影響を
 受けにくい顧客基盤

(2025年6月末現在)



- 食品
- アパレル
- 百貨店
- 医薬品・化粧品
- スーパー・ドラッグストア
- コンビニ
- 家電・住設
- E C (通販)
- 雑貨
- その他
- ライフケア
- 自動車



食品産業



生活産業

ザ・パックの強み(2)

強み	内容
2.パッケージの トータルソリューション 提供	◆ (サポート体制の充実) 営業・リサーチ企画部門・設計やデザイン部門が協同提案 ◆ (ノウハウ・情報量の充実) 国内最大規模のパッケージラボを運営 ⇒ <u>総合パッケージメーカーならではのソリューションを提供</u>



ザ・パックの強み(2)

■パッケージラボ

東京・大阪・福岡の3拠点に、パッケージに特化したショールームを常設。

世界のパッケージを収集・展示しており、パッケージのトレンド把握や、パッケージの仕様決定にお役立て頂ける施設。

年間約1,200企業2,300人のお客様に来訪いただいている。



パッケージラボ東京 (881㎡)



パッケージラボ大阪 (990㎡)



パッケージラボ福岡 (89㎡)



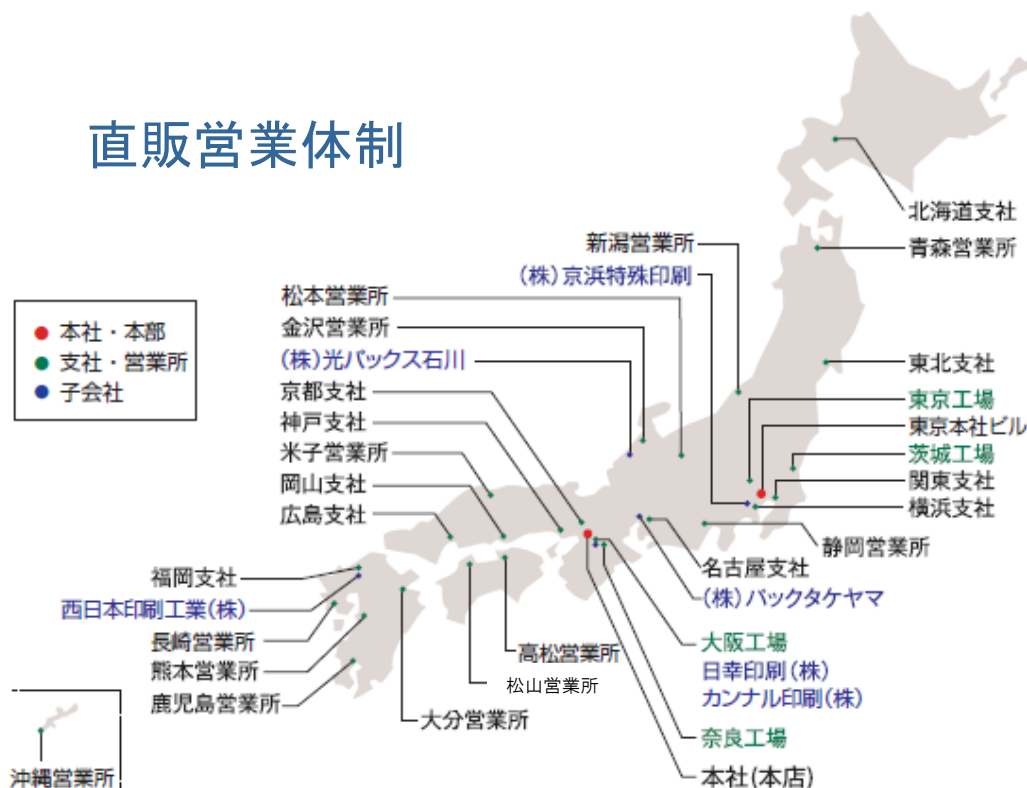
ザ・パックの強み(3)

強み

内容

3.製造・販売・物流一貫体制

直販営業体制



国内4工場・グループ会社・外部委託工場との協力により
災害・事故などの発生時のリスクマネジメントにも対応

当社グループ

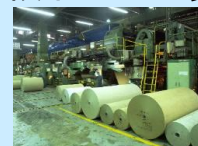
印刷工場



化成品工場



段ボール工場



製造

紙袋工場



紙器工場



全国各地の直販営業体制

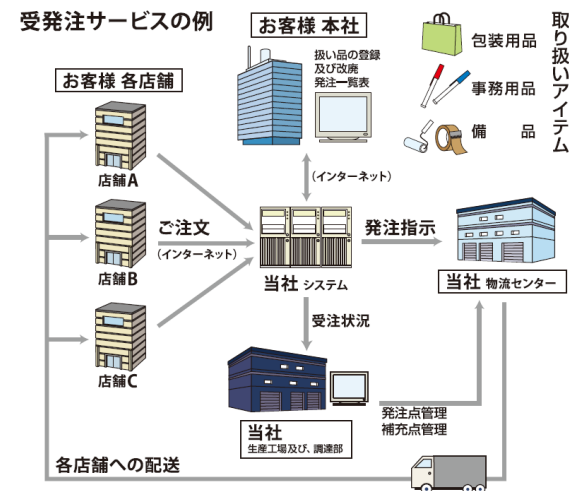
物流

製品

全国各地の顧客

ザ・パックの強み(4)(5)

強み	内容
4.品質管理体制	◆ 全社にて、品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001認証を取得 ◆ 東京工場・大阪工場にて ⇒ <u>食品安全マネジメントシステムの国際規格FSSC22000認証を取得</u> ◆ 「品質強化によるCSの向上」の方針のもと、安全・安心な製品の提供、顧客の信頼と満足を得られるように取り組む
5.ITを駆使した顧客とのネットワーク	◆ 包装資材や備品等をまとめて納品 ⇒ <u>一括納品による物流の合理化でCO₂削減にも貢献</u> ◆ Web発注『Pack-Web』提供 ⇒ <u>顧客の発注業務を合理化</u>



ESGへの取り組み(1)

取り組み	内容
1.社会貢献活動を支援するパッケージ企画提案 SDGsとの 関連性  1 貧困をなくそう  2 飢餓をゼロに  10 人や国の不平等をなくそう	◆ 環境に優しい次世代型の耐油コーティング「カイソナル[®]加工」の販売開始 食品テイクアウトパッケージの需要増と環境負荷低減のニーズに対応すべく、海藻由来の原料を使用したコーティング剤を開発しました。 紙製トレイにコーティングすることで、従来品と同等レベルの耐油性効果がある、PFAS・プラスチックフリーの紙製一次容器を実現します。 プラスチック製食品テイクアウトパッケージの代替品として、食品市場のニーズに応えていきます。  <製品の特長> ・安全性が高い海藻由来の原料を使用 ・プラスチックフリー＆生分解性 ・PFAS・スチレン・アクリルフリー ・従来の耐油トレイと同等レベルの耐油性を有す 製品の詳細はブログにてご確認いただけます https://www.thepack.co.jp/blog/products/a197 

ESGへの取り組み(2)

取り組み	内容
2.環境への取り組み	◆ 2006年に国内の全工場・事業所でISO14001の認証取得 ◆ PRTR法対象物質の取扱量や産業廃棄物の削減を推進 ◆ 環境対応商品の開発やFSC®商品の販路拡大に取り組む ◆ 海洋プラスチックごみの削減につながる革新的な代替品の開発と普及を促進する経済界全体として官民一体となった活動を行う「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス」の幹事会員として活動 ◆ 再エネファンドへの出資により、再エネの普及・拡大を後押し ◆ TCFDに沿った情報開示を行い2030年度までのCO₂排出量削減目標を策定 ⇒CO₂排出量(Scope1+2)を2018年度比で46%削減する

SDGsとの
関連性

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任 つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさを守ろう

CO₂排出量(Scope1+2)推移

16,662	15,512	14,914	14,894	15,399	16,756	16,149	マテリアリティ KPI
Scope2 11,532	Scope2 10,445	Scope2 9,873	Scope2 9,851	Scope2 10,353	Scope2 11,638	Scope2 11,279	2018年度比 46%削減
Scope1 5,130	Scope1 5,067	Scope1 5,041	Scope1 5,043	Scope1 5,046	Scope1 5,118	Scope1 4,870	8,997
2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2030年 目標 (単位:t-CO ₂)

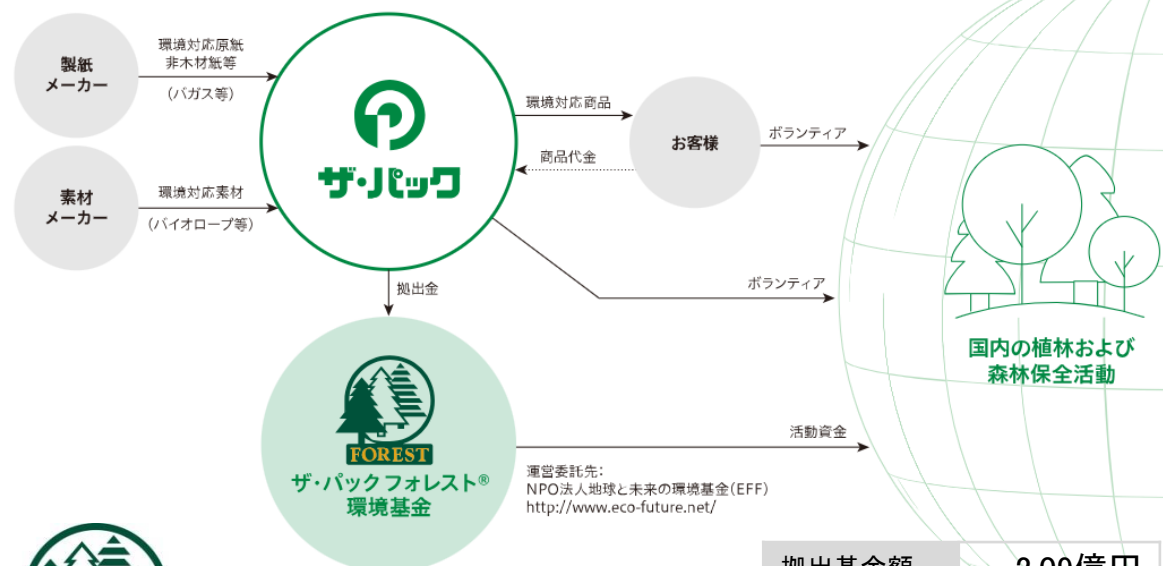
ESGへの取り組み(3)

取り組み

3. ザ・パックフォレスト® 環境基金活動 (森林保全活動)

内容

- ◆ 2000年に独自の「ザ・パックフォレスト®環境基金」を設立し、植林地にて植樹や間伐を行うボランティア活動を開始。現在、植林地は全国に10カ所
- ◆ 環境対応商品の販売額の一部をフォレスト環境基金として拠出
- ◆ 運営はNPO法人「地球と未来の環境基金(EFF)」に委託
社員だけでなく、顧客や一般の方と協働で森林保全活動を実施



SDGsとの 関連性



ザ・パックフォレスト®マーク

拠出基金額	2.09億円
植樹本数	23,693本
参加者合計	7,660人
植樹面積	19.57Ha
CO ₂ 吸収量	2,258.87t

(2025年6月末時点累計)

ESGへの取り組み(4)

取り組み

内容

4.人材育成と職場づくり

- ◆ 社は「愛し愛され」、経営理念「人を大切に 人を育てる経営」の考えに則り、人材育成、育児・介護支援、雇用の安定、その他社員の福利厚生に取り組む
- ◆ 「健康経営優良法人2025」に認定(7年連続認定)
健康診断・二次検診の徹底、禁煙チャレンジ、
ストレスチェックの運用、予防接種費用補助の実施など
- ◆ スキルアップにつながる評価・支援制度の導入・運用
2020年に新たな人事制度を導入、タレントマネジメントシステムによる
社員情報の一元管理、人材開発会議による公平で適切な評価、DX研修、
階層別研修の実施、スキルアップ支援制度による資格取得の経済的支援など

SDGsとの 関連性

- ◆ 多様な人材の活用
女性活躍推進、包括短時間勤務制度、継続雇用社員・パート社員の処遇改善
男性社員への育児休業など取得の推進、障がい者雇用を目的にした
「海南事業所」開設、紹介採用制度の導入など

ESGへの取り組み(5)

取り組み	内容
5.社会貢献活動	◆ 「環境教育」の一環として、東大阪市と協働し小学校で「モノづくり体験教室」実施 
	◆ 公益財団法人関西フィルハーモニー管弦楽団の後援 ◆ 吉野山保勝会への寄付 ◆ 子供地球基金への賛同
	◆ おしごとフェアへの講師派遣  おしごとフェアは奈良県内の里親家庭、ファミリーホーム、児童養護施設で暮らす中学生を対象としたイベント。働く大人の話を通して、自分にあった進路や職業を見つけるきっかけにすることを目的としている

注意事項

本資料は、2025年12月期決算の業績および経営方針に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘することを目的としたものではありません。又、本資料は2025年6月末日現在のデータを基に作成しております。

本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性・完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後予告なしに変更することがあります。

IRに関するお問い合わせ先

ザ・パック株式会社 IR広報室

〒151-0063東京都渋谷区富ヶ谷2-8-4

TEL: 03-3469-1221 FAX: 03-3469-1353 メールアドレス: koho@thepack.co.jp